



トップに聞く!

先取的な企業風土を礎に
地元九州とともに発展し、
100年永続企業を目指す。

南国殖産株式会社

代表取締役社長

ありのり

永山 在紀氏

取引店 / 福岡銀行 鹿児島支店





▲左から永山社長、谷頭取

地元の皆様のお役に立ちたい という想いをもとに発展

我が社は、第二次世界大戦中の1945年(昭和20年)3月、上野喜左衛門きざえもんにより「南国兵器株式会社」として設立されました。喜左衛門は、終戦後の同年10月に「南国殖産株式会社」へと社名を変更し、「地元の産物を中央に出し、地元で必要な資材を中央から集め、皆様のお役に立ちたい」と、会社の方向性を商社へと導きました。

その後、セメントや砥油類・酒類の販売等、徐々に業容を拡大し、現在では4つの事業を核とする総合商社として、鹿児島を中心とした九州を拠点に事業を展開しています。

4つの事業とは、ガソリンスタンド展開を主軸とする「エネルギー事業」、携帯電話の販売代理店等を展開する「情報通信事業」、建築・土木資材の設計・施工・販売を行う「建設資材事業」、エレベーターや太陽光発電設備等の生活・



南国センタービル

情報通信事業本部



▲ドコモショップ加世田店(鹿児島県南さつま市)

エネルギー事業本部



▲ニュー東開サービスステーション(鹿児島県鹿児島市)



▲TSUTAYA佐世保梅田店



▲天然ガスエコステーション(福岡県荊田町)

産業ライフラインの設計・施工・販売を行う「機械設備事業」です。「南国グループ」は、南国殖産を中心に子会社・関係会社40社で形成され、連結売上高2,100億円、従業員2,700名(臨時雇用含む)を擁する企業集団として成長を続けており、いずれの会社も常に時代の変化を促え、攻めの展開で着実に成果をあげることが出来ています。

創業時から続く 先取的な企業風土

我が社には、起業家精神(新しい事業分野に積極的にチャレンジする精神)に富む創業者、上野喜左衛門の志が脈々と受け継がれており、先進的な成長分野に取り組む企業風土が醸成されています。

私も主要事業に注力する一方で様々な事業を模索し、次世代ビジネスとなる新規事業に取り組んできました。

南国殖産 株式会社

その一つが、JR鹿児島中央駅前の「都市再開発事業」です。2009年(平成21年)に、鹿児島の表玄関にふさわしい先進オフィスビル「南国センタービル」が竣工しました。また12年(平成24年)には、バスターミナル、各種店舗、オフィス、ホテル等が入居する地上14階建ての複合施設「鹿児島中央ターミナルビル」が完成しました。このビルには企業の大規模コールセンターの開設が決定しており、来年には、数百人規模の雇用が生み出される予定です。現在は、中央駅前一番街商店街の再開発に着手しているところです。

「再生可能エネルギー」も注力している事業で、太陽光発電パネルの販売・施工は約10年前に開始しました。12年(平成24年)3月には、同年7月にスタートした再生可能エネルギーの固定価格買取制度に先駆けて、大規模太陽光発電事業を行う「九州おひさま発電株式会社」を立ち上げまし



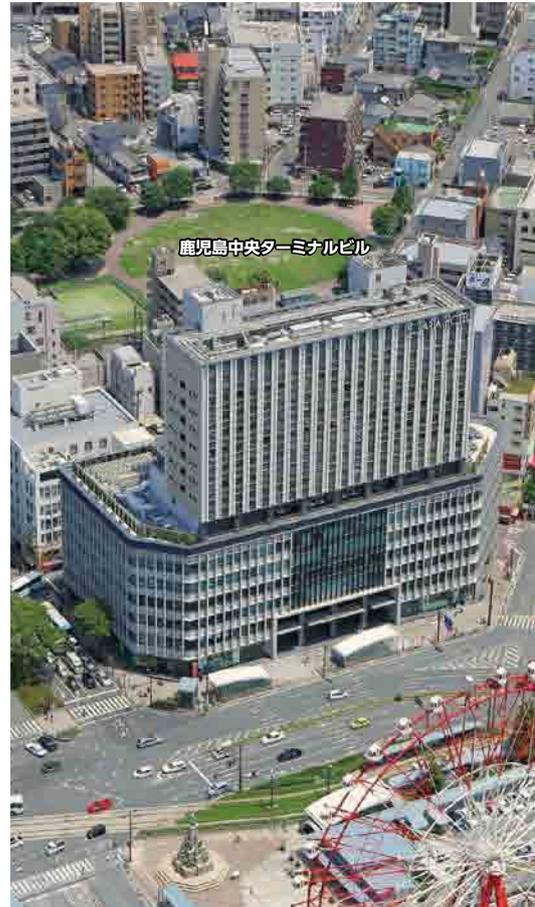
機械設備事業本部

▲南国センタービルエレベーター



建設資材事業本部

▲南国センタービル建設風景



鹿児島中央ターミナルビル

▲鹿児島中央ターミナルビル(中央左)と南国センタービル(中央右)



九州おひさま発電

▲寄田発電所(鹿児島県薩摩川内市)



▲太平洋セメント代理店

た。現在、鹿児島県内3カ所でメガソーラー発電所が稼働している他、鹿児島・熊本・宮崎等九州各地で、2015年までの3カ年に約40カ所、100MWの大規模発電所を建設する予定です。また、小水力発電分野にも参入し、同年1月に「九州発電株式会社」に資本参加しました。こちらは、霧島、肝属きもつの2カ所に発電所を建設中で、今後約40カ所に小水力発電施設を建設する計画です。

これらに加え、新ビジネスの芽も育てています。例えば、鹿児島県の安心・安全な農産物を全国に広める為、「南国ファーム株式会社」を設立しました。成功の為に必要条件である「ビジネスとしての農業経験を持つプロスタッフ」と「確かな販売先」を確保しており、今後の注力事業です。医療・介護分野においては、病院との合併で高齢者専用賃貸住宅を運営しています。

これらの事業のほとんどは、各セ

クシヨンから吸い上げた情報をもとに、「ミドルアップ・ミドルダウン」という我が社の強みを維持しながらトップダウンで進めています。つまり、社員が集めた情報が社長である私のところまで上がってくる風通しの良さと、意思決定の迅速さが我が社の強みと言えます。

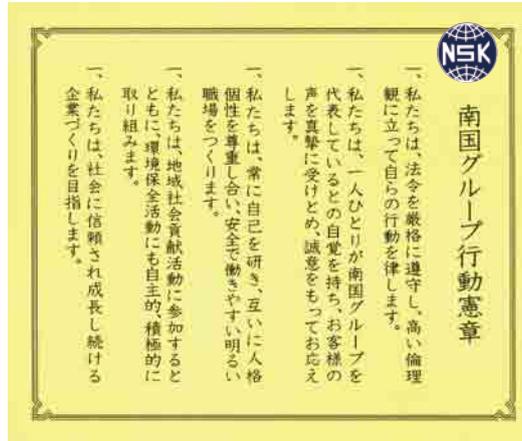
グループ経営基本理念を胸に

我がグループでは、「社会貢献」「人こそ財産」「社会的責任」を経営基本理念としています。

九州新幹線の全線開通を地域活性化につなげる為、昨年、JR鹿児島中央駅前に「かごつまふるさと屋台村」をオープンしました。この屋台村は、鹿児島ブランドの黒豚や焼酎を味わえる拠点であるとともに、鹿児島県産品の情報発信地となっています。また、若手企業家育成も屋台村創設の目的の一つである為、家賃は格安に設定しています。100対100の大規模



▲永山社長



▲南国グループ行動憲章



▲賑わう「かごつまふるさと屋台村」



▲創業社長 上野喜左衛門



▲1950年当時の新聞広告



▲1957年オープン当時の阿久根給油所

お見合いパーティー「村コン」や「ご当地鍋グランプリ」といったイベントも奏功し、開村1年で来村者50万人を突破しました。夕方は多くの方が訪れ、新名所としての知名度も高まっており、「地域社会への貢献」につながっているのではないかと思います。

我が社は地域の総合商社であり、オリジナルの商品はありません。従って、「人こそ財産」という考えのもと、「人財」で他社との差別化を図っています。その為、人財育成に特に注力しており、入社前通信教育をはじめ、新入社員研修・評価研修・職階別研修・職種別研修等、多彩な研修制度によって社員の能力を高め、社員の能力の伸長には昇進や報奨等で応えています。

そして、お取引先や地域社会の皆様から信頼を寄せて頂ける企業である為、企業としての「社会的責任（企業活動の過程において、法令及び社会的規範を遵守すること、高い倫理観・道徳観に立って自

南国殖産 株式会社

らの行動を律すること」を果たす
 ことが必要だと考えています。

これらの経営基本理念を身に付
 け、実践する為、「南国グループ行
 動憲章」を策定し、朝礼時に全事
 業所の全社員で唱和しています。

**地域社会に貢献することで、
 100年永続企業へ**

我が社は、おかげさまで
 2015年(平成27年)に設立70
 周年を迎えます。

我がグループは、鹿児島を中心
 とした九州に根差した企業集団で
 あり、九州の発展なくして我がグ
 ループの発展はありません。今後
 も地元の発展に尽力し、地域社
 会・お客様・お取引先・株主様等に
 信頼され、成長し続けることが
 「南国グループ」の存在理由だと
 考えています。これまで受け継が
 れてきた企業文化・風土を大切に
 守り、100年永続する企業集団
 を目指し、精進していく所存です。



▲後列左端 今村取締役、後列左から6番目より平原取締役、上野常務、永山社長、谷頭取、西村支店長(福岡銀行)

◎インタビューを終えて



福岡銀行
 取締役頭取 谷 正明

4つの主力事業を基盤に、九州を代表する総合商社として、確固たる地位を築いておられます。

本日の対談では、永山社長の「地元に対する深い愛情」を感じました。

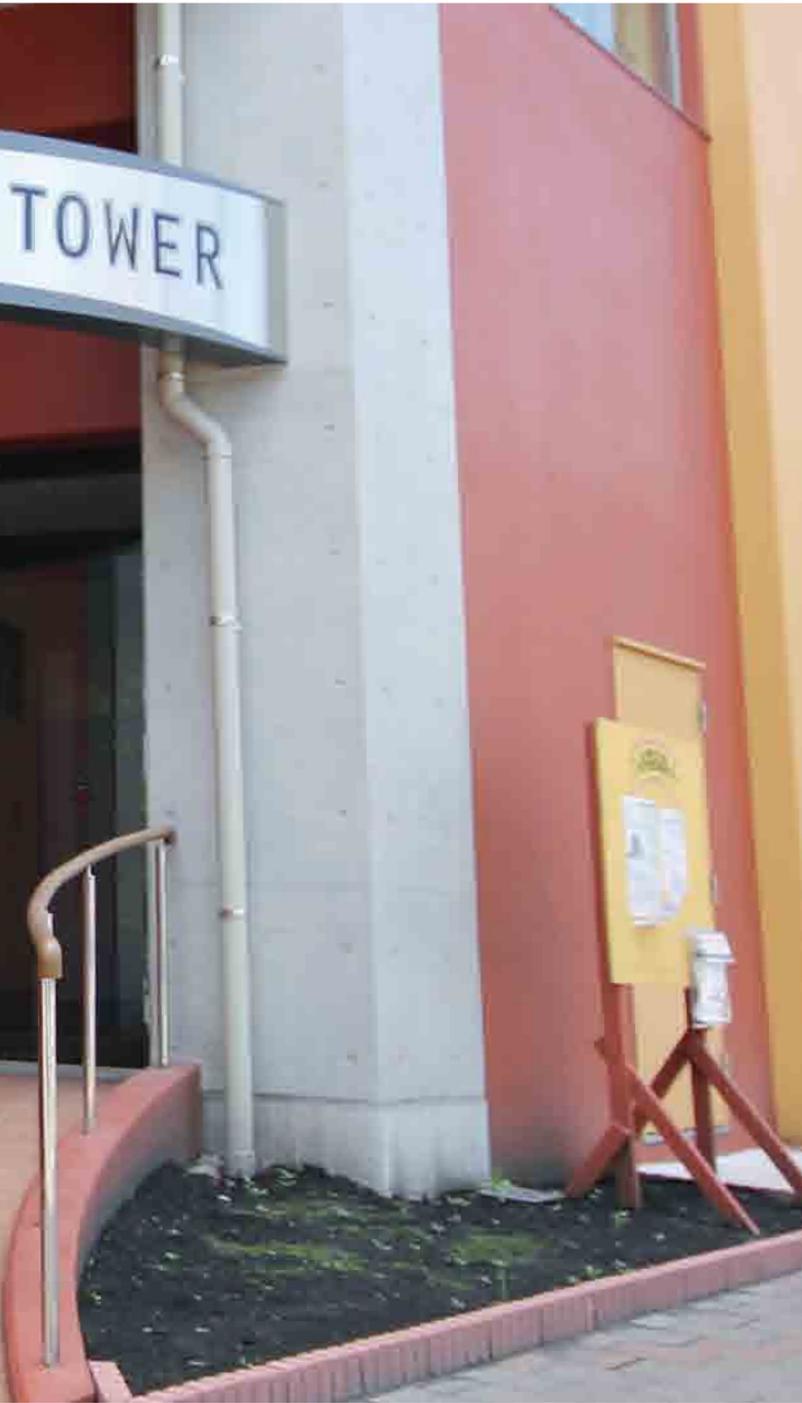
最近、鹿児島中央駅前の再開発から、ユニークな「かごまふるさと屋台村」の開村まで様々な事業に取り組み、全てが地域社会の発展につながっています。

これからも地域社会への貢献を続けられ、貴グループが益々発展されることを祈念致します。



トップに聞く！

新しい医療文化、絆再生の試みを 薩摩の地から世界へ発信。



医療法人堂園メディカルハウス
理事長

堂園 晴彦氏

取引店／熊本銀行 鹿児島支店



「堂園メディカルハウス」という名前についてですが、

「病院」ではなく「ハウス」とした部分に、先生の哲学・思想が感じられますね。



堂園理事長 祖父の代から地域医療を
しています。1991年

(平成3年)に父の跡(堂園産婦人科)を私が継ぎました。そして96年(平成8年)に総合内科、がん総合診療科等を備えた有床診療所を設立しました。設立は文



▲左から堂園理事長、林頭取

化の日(11月3日)で、「医療は文化である」という私の思いを込めています。「メディカルハウス」という名前にも2つの意味を込めています。1つは「病院の中に家庭の雰囲気」という理念、もう1つはドイツで優れた芸術家を輩出した「バウハウス」のように、優れたホスピス医療従事者を送り出したいという願いです。

私が患者さんと接するとき大切にしていることに、持論である「患者観客論」というものがあります。これは、医療機関(建物)が舞台で、医師や看護師が「演者」、患者さんが「観客」であるという独自の考え方です。舞台では、演目の途中で演者が変わってしまうと観客は感情移入することが出来ず、満足しません。これと同じで、患者さんに満足して貰える医療を提供する為には、出来るだけ同じスタッフが患者さんを看続けることが重要だということです。

鹿児島市の街の中心で
長屋を現代風に再現した
“NAGAYA TOWER”



▲広々とした予約制の共用風呂(4・5階の2ヵ所)



▲V字型に設計され、住人同士が顔を合わせやすいよう
ドアが向かい合っている



▲共用のテラス(3階)花壇を設置し、住人が手入れに参加する予定



▲住人が集う共用リビング(2階)

私は「手のぬくもりとおもてなしのシャワー」という理念を掲げて患者さんをケアしてきました。医療の場では、患者さんが主体です。父の産婦人科を継いだ後、91年(平成3年)に在宅ホスピス(終末期の緩和ケアを行う施設)を開始しました。これは国立がんセン

「患者さんが観客」とはユニークですね。そのような考えの下で、先生が心がけていることや感じることありますか。

「患者さんが観客」とはユニークですね。そのような考えの下で、先生が心がけていることや感じることありますか。

ただし患者さんとの距離感は重要です。ノンフィクション作家の柳田邦夫氏が提唱する「2.5人称の視点」に基づく医療(患者本人(1人称)や家族(2人称)に寄り添いつつ、専門家(3人称)としての冷静な目を備えた医療)を理想としています。当ハウスは、適度な距離感(2.5人称)を保ちながら、細やかなサービスを提供する為の適正な規模だと思っています。

現場が大事という言葉は、私にとっても教訓になりますね。先生は人材育成にも注力されているようですが、「NPO法人 風に立つライオン」のお話をお聞かせください。

また、私が患者さんと直接触れ合う中で、社会を見渡してみても感じたことがあります。それは、トップと現場スタッフが離れすぎているということです。トップが現場をよく知り、現場で楽しむことが組織の成功に繋がると考えています。ですから私は、患者さんとよく会って話すことを心がけています。

ターでの勤務経験を活かして、「最期の時は自宅で過ごしたい」という患者さんの願いに応えたものです。96年(平成8年)に当ハウスを作ったのも、和室の病室があるのも患者さんの希望に応えたものです。

医療法人 堂園メディカルハウス



▲NAGAYA TOWER見学の様子



▲NAGAYA TOWER屋上から、甲突川(左手)と桜島(右奥)を望む



▲コミュニティカフェ(1階) 地域住民の利用も可能



▲バルコニーにも間仕切りを設けず、交流の場に



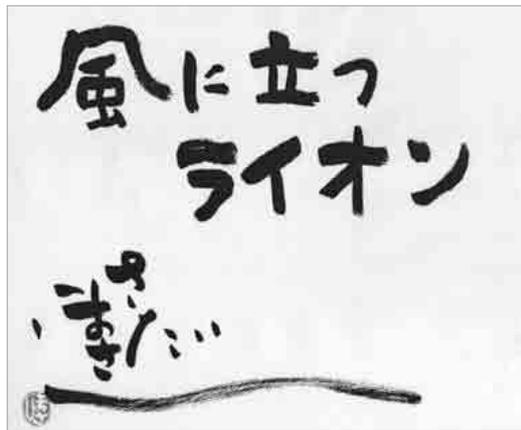
▲大通り(ナボリ通り)から見たNAGAYA TOWER

「風に立つライオン」は、良き医療人の育成の為に2002年(平成14年)に設立しました。ここでは毎年、インドのマザー・テレサのホスピス施設に医学生等を派遣し、ボランティア活動を行っています。この法人名は、アフリカで医療に従事した日本人医師を題材にした、歌手のさだまさし氏の曲「風に立つライオン」から、同氏の許可を得てお借りしたものです。同氏は最近、「風に立つライオン」という小説も出版されています。活動の目的は、ケアするということがどういうことを最貧困の場所で肌で感じ、命に寄り添う「最愛医療」を感じて貰うことです。参加者は医学生がメインですが、中年世代をはじめ、60代の人等、様々な年代の一般の方も参加されています。

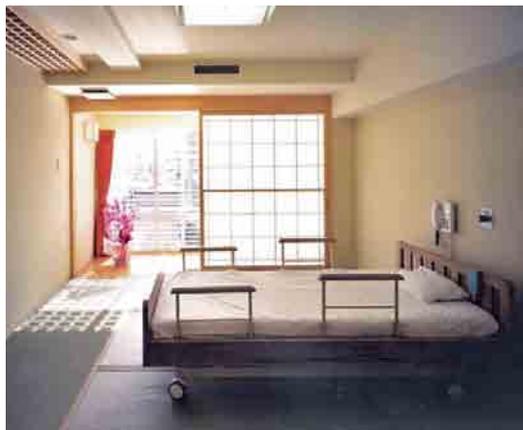
例えば日本の中年世代はものすごく「心が渴いている」気がします。この活動に様々な人が参加し、人生を見直したり、心の渴きを癒したりするきっかけになるとすれば、マザー・テレサの施設は自分を見つめ直し、磨く場所と言えるかもしれませんね。日本にそんな場所はなかなかありません。出来れば、当ハウスもそういう場に近づくことが出来ればと思っています。

本年4月に、NAGAYA TOWER(ナガヤタワー)という今までにない賃貸住宅がオープンしましたね。どのようなコンセプトなのでしょうか。

昔と比べると、今の時代は「社会的孤立」や「精神的孤独」の中にいる人が増えている気がします。老老介護が多い現状を見ても、それが分かると思います。そこで、血のつながりにとられない人間同士の絆を大切にしたい、新しい共同体が必要と考えたわけなんです。今までのように、老人は老人施設、障がい者は障がい者施設、



▲NPO法人 風に立つライオンの題字(さだまさし氏揮毫)



▲メディカルハウスの病室は全個室で、和室も準備されている



▲NAGAYA TOWERの理念「微笑みを交わす人がいれば 人生は幸せ。」



▲学園理事長



▲メディカルハウス内のヘルシーレストラン(2階)洋服や雑貨を扱うショップも併設している



▲NAGAYA TOWERでは住人向けに趣味サークル等も開催

末期のがん患者はホスピスと、同じ境遇の人ばかりを集めるのではなく、古き良き時代の「長屋」のように、いろんな人が一つの建物にいて、相互に助け合う環境を作りたいと思い、NAGAYA TOWER PROJECTを立ち上げました。ですからNAGAYA TOWERでは、あえて自室で生活が完結しないようにする一方、豊富な共用スペースを設けて交流を促す仕組みを作っています。

ちなみに、ここに勤務している社会福祉士は、大学生の時にマザー・テレサの施設でボランティアを行っていました。私のNAGAYA TOWERへの思いに強く共感してくれ、関西の大学を卒業後、すぐに就職してくれたのです。

「長屋」のように、住民みんなが知り合いで助けあう住まいですね。こうした理想を追求し、形に

するまでには苦勞もあつたと思います。

苦勞した点はNAGAYA TOWERを作るといふ思いを持ち続けることでした。「医療なのか福祉なのかはつきりしない」「成功するはずがない」と言う方が多くいました。しかし、うまくいくと信じて、愚直に前に進む者が良い結果を手に行き届くと確信していた為、結果が出るまでの過程はほとんど気になりませんでした。

まさに信念ですね。最後に、今後の展望をお聞かせください。

私の理想とする「医療文化」を世界に広げていきたいという思いで、今の仕事を頑張っていると思っています。ただし、当ハウスは私の理念「手のぬくもりとおもてなしのシャワー」を実現するのに適切な規模だと考えている為、今の

医療法人 堂園メディカルハウス



▲左から堂園理事長、林頭取、坂本支店長(熊本銀行)



▲インドでのボランティアの様子



▲堂園理事長が執筆された絵本「水平線の向こうから」



NAGAYA TOWER

▲NAGAYA TOWERのロゴマーク(下から桜島、霧島、錦江湾を表し、三角は屋根、線は繋がりを表している)

人を見つめ、人に寄り添ってきた堂園先生らしい発想ですね。私どもとしても、貴重なご意見として賜りたいと思います。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

規模を維持したいですね。「最大」ではなく「最高」を目指します。それから、これは私から金融機関の方々へのお願いですが、興業銀行、農業銀行のように、ぜひ医療福祉銀行を作って欲しいと思います。診断書に基づいて、がんの末期患者に低金利で、しかも担保や保証人を必要としないで、お金を貸し出すようなシステムができれば素晴らしい。最初に実施したところは「世界初」として、ネームバリューも高まると思います。

◎インタビューを終えて



熊本銀行 取締役頭取 林 謙治

「手のぬくもりとおもてなしのシャワー」という理念を掲げ、目の前の患者様と真摯に向き合った医療を行ってこられた一方で、NPO法人での活動を通して「良き医療人」の育成も積極的に行っておられます。医療に対するひたむきな取り組みが、地域の皆様からの厚い信頼を寄せられる源泉となっていると確信致しました。

今後も、ぬくもりを感じられる医療を発展させ、地域の皆様にとって無くてならない「メディカルハウス」としてご発展されることを祈念致します。



トップに聞く!

地球スケールで海の幸を求め、
お客様に〴〵満足〴〵を提供したい。

冷凍倉庫業からスタートし、
業界屈指の寿司ネタ加工業者へ

我が社は、東シナ海産の天然の
「あなご」をはじめ、「つぶ貝」「と
り貝」「赤貝」「えび」「いか」「た
こ」等の寿司ネタ加工食品を販売
しています。大手外食寿司チェー
ンを中心に国内外に販路を持ち、
特に「あなご」と「つぶ貝」は全国
トップシェアを誇っています。

我が社は、1967年(昭和42



ボングルメ株式会社
代表取締役社長

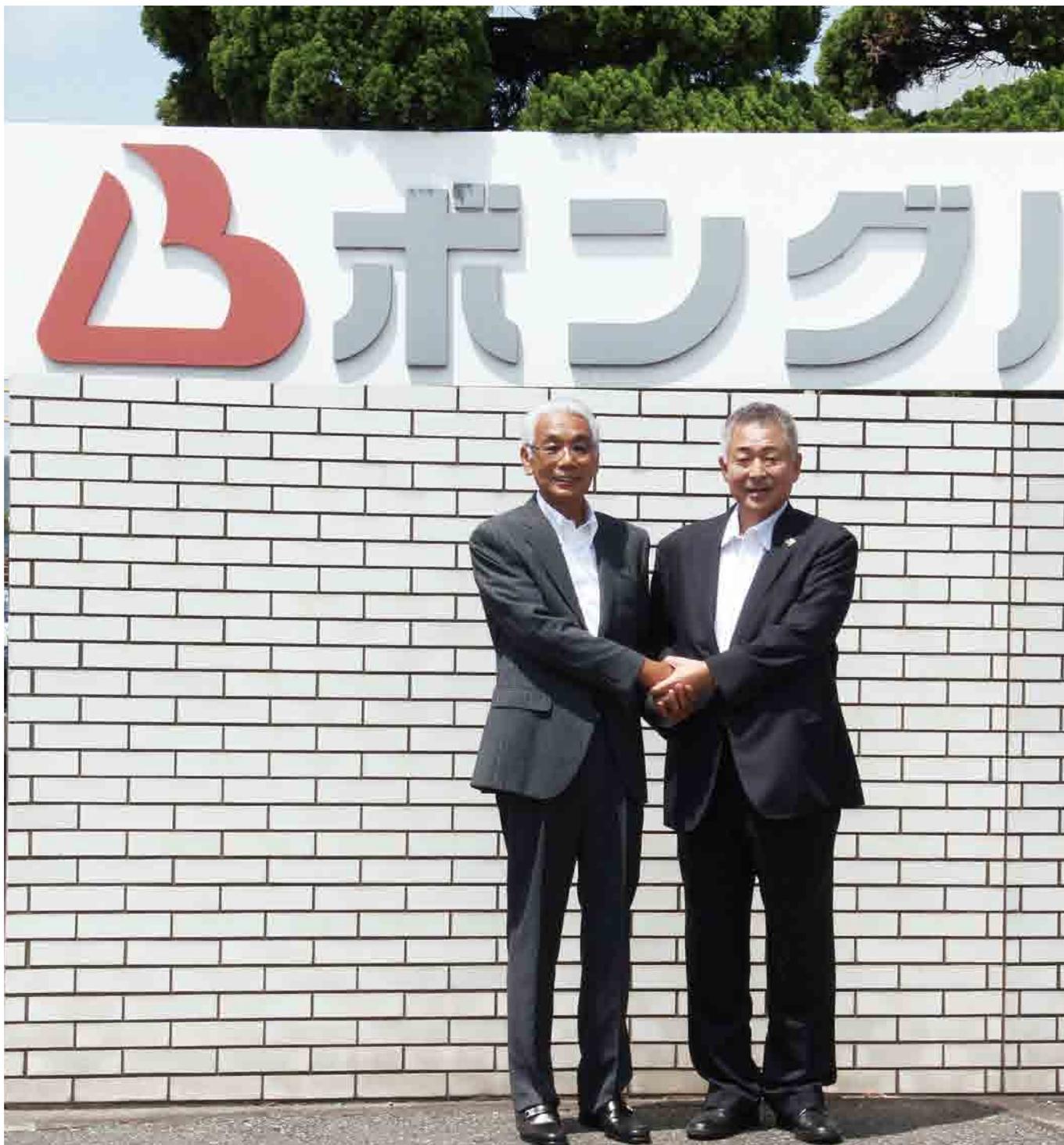
島内 和行氏

取引店／親和銀行 小倉支店
福岡銀行 北九州営業部

ボングルメ 株式会社

年)に設立した株式会社三幸興産が前身になります。「これからの食品業界は、冷凍食品が主流になる」との予測から、73年(昭和48年)、冷凍倉庫業(5,000トン)を開始し、社名も株式会社三幸冷凍に変更しました。今となつては食卓にあまり上らなくなったクジラで、冷凍倉庫がいつぱいになるような時代でした。

大阪万博が開催された70年(昭和45年)になると、海外の的外食チェーンが日本に上陸し、日本の外食産業の幕開けとなりました。ある時、寿司チェーンの創始者である山木益次氏から、「誰でも握れるあなご寿司は出来ないものか」と相談されました。あなご寿司は味付けが難しく、商品開発にはかなりの時間を要しましたが、試行錯誤の末、韓国から輸入した冷凍あなごを国内の工場で加工することで、納得のいくあなごを



▲左から島内社長、小幡頭取

作ることができ、ようやく商品化に漕ぎ着けました。それまで高級品であったお寿司を安価に提供出来るようになったことが、我が社のターニングポイントとなり、業容は順調に拡大し始めました。89年(平成元年)には、関連会社との合併と業務拡大に伴い、社名をポングルメ株式会社に変更しました。

その後も、回転寿司店やファミリレストラン等の外食市場は拡大し、お取引先が次第に増加しました。その結果、国内工場だけでは加工が追いつかなくなり、94年(平成6年)に中国山東省にある3つの工場と提携しました。当時は、中国への食品工場進出はまだ珍しい時代でした。あなごはうなぎのように養殖が出来ない為、東シナ海で取れる「天然」の真あなごを使用しています。それならば、漁場に近く、経費の安い中国

で加工すれば、採算性が向上すると考え、中国進出を決定しました。中国での加工量が順調に増加したこともあり、2004年(平成16年)には、全ての加工工程を中国工場で行うようになりました。

また、ロシアやタイ、ベトナムから「つぶ貝」「えび」「いか」等の魚介類の輸入を開始し、あなご商品以外でも、多様化する顧客ニーズに因應る為に、商品ラインナップを充実させています。

また、ロシアやタイ、ベトナムから「つぶ貝」「えび」「いか」等の魚介類の輸入を開始し、あなご商品以外でも、多様化する顧客ニーズに因應る為に、商品ラインナップを充実させています。

**3つのBを基本理念に
素晴らしい美味しさを
お届けしたい**

我が社の基本理念は、3つのBで表されます。

「Believe(信頼すること、されること)」

「Brain(知力を高め未来を志向)



蒸しあなご



焼あなご



東シナ海産の天然あなご



煮あなご



天ぷらあなご

する(こと)」

「Benediction(感謝の気持ちを持ち続けること)」の3つです。

この3つのBを基本理念にし、日々変化するお客様のニーズに 대응できるように、商品開発に取り組んでいます。

また社名のボングルメは、フランス語のBon(素晴らしい)とGourmet(美食)を組み合わせたもので、「常に素晴らしい美味しさをお届けしたい」と願う、私達の変わることのない姿勢を表現しています。

最新設備の中国工場で

加工される

300種類のおなご商品と

国が認定する保税倉庫

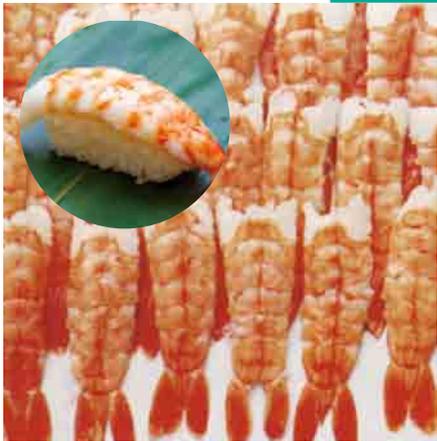
提携している中国の3工場は、日本式の厳密な品質・衛生管理システムに基づいた近代的工場

(ISO・HACCP「※」認定工場)で、新鮮で高品質な寿司ネタを作ることが出来ます。

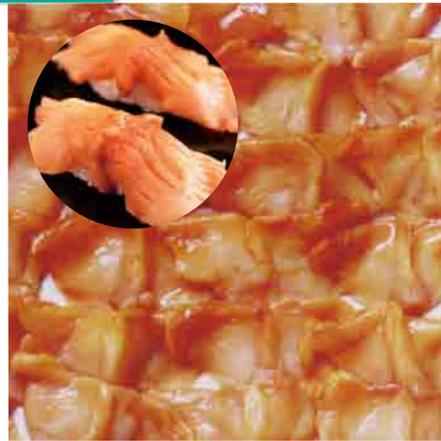
また、現地従業員の技術は素晴らしい、グラム単位であなごを切り分ける技は、本場日本の寿司職人顔負けのレベルです。

あなごには、調理法だけでも「焼き」「蒸し」「炙り」「煮込み」等があります。更に、一切れの「大きさ」や「厚さ」の他、関東の濃い味・関西の薄味といった「味付け」等、お客様からの様々なオーダーに対応している為、我が社ではあなごだけでも300種類を超える商品を提供しています。中でも、味付けには我が社が長年培ってきたノウハウが詰まっており、「煮つめたれ」は国内自社工場で生産しています。現在では、回転寿司等で提供されるあなご寿司の大半に、我が社のあなごが用いられるまでになりました。

寿司ネタ



▲えび



▲赤貝



▲つぶ貝



▲たこ



▲あなごの味を決める当社特製煮つめたれ

また、国が認定する「保税倉庫」(外国から輸入された貨物を、税関の輸入許可が出る前の状態で、関税を留保したまま置いておける倉庫)を保有していることも我が社の強みです。設立当初からこの保税倉庫を活かし、輸入食品の保管業務を長年続けてきました。その結果、我が社の真摯な取り組みが評価され、日本はもちろん、中国・青島の税関や検疫所からも信頼は厚く、冷凍餃子事件や尖閣諸島問題で日中関係がギクシャクした際にも、何の問題もなく輸入手続きが出来たのは、長年の実績と信頼関係のおかげだと思っています。

※ 食品の原料受入から製造・出荷までの全ての工程において、危害の発生(異物混入や食中毒等)を防止する為の重要ポイントを継続的に監視・記録する衛生管理手法

オーダーメイドでの迅速対応を強化し更なる海外展開を促進

近年、暮らしのハイクオリティ時代を迎え、食生活もより豊かになり、お寿司は、今や世界の共通語となりました。海外の寿司店舗においても日本同様に食材の高品質・多様化が要求されるようになりました。一方で価格や衛生面での対応を迫られるという厳しさもあります。このような時代にあつて、我が社は「21世紀の食文化づくり」を経営ビジョンとして掲げ、



▲島内社長



▲本社工場見学風景(煮つめ工程)



▲本社



▲あなごの焼き工程(中国提携工場)



▲提携工場(ベトナム)



▲提携工場(中国)



あなごをはじめ、タイやベトナム等の提携工場で加工される「えび」「いか」「たこ」、またロシアからの「つぶ貝」等、安心・安全な商品を提供して参ります。

今後は、未来の食品業界を展望し、国内はもとより海外からも地球スケールで海の幸を求め、ポングルメだからこそ出来る最高の寿司ネタで、お客様に「ご満足」を提供したいと決意を新たにしています。



▲前列左から4番目より、安藤営業部長、山田専務、島内社長、小幡頭取、是澤支店長（親和銀行）、大庭商品部長

◎インタビューを終えて

近年、食のニーズは多様化し、価格や衛生面での対応など、業界に求められることは厳しさを増しています。あなご加工食品市場において、貴社が全国トップシェアを誇っておられるのは、あなご商品のみで300種以上を揃えるほど、お客様の要望を真摯に応え続けてこられた結果であると拝察致します。また、うなぎと違って、あなごは全て天然ものだということには、大変驚きました。

これからも、地球スケールで探究された美味しい食材を多くのお客様の食卓に届けて頂き、笑顔が広がる食生活づくりに貢献されることで、益々ご発展されることを期待しております。



親和銀行
取締役頭取 小幡 修

8, 13 南国殖産 株式会社

南国殖産

- 設立: 1945年
- 所在地: 鹿児島県鹿児島市
- 資本金: 5億円
- 従業員: 2,700名(連結/2013年3月末現在)
- 事業内容: 総合商社(エネルギー事業部門/
情報通信事業部門/建設資材事業部門/機械設備事業部門)
- 事業拠点: 鹿児島県鹿児島市(本社)、福岡市博多区、
鹿児島県霧島市、鹿児島県鹿屋市、鹿児島県薩摩川内市、
宮崎県宮崎市、熊本県熊本市、長崎県長崎市、東京都千代田区(支社)
- 取引店: 福岡銀行 鹿児島支店 099-253-1991



南国殖産株式会社

14, 19 医療法人 堂園メディカルハウス

堂園メディカルハウス

- 設立: 1996年
- 所在地: 鹿児島県鹿児島市
- 資本金: 1,200万円
- 従業員: 41名(合計約100名)
- ソーシャルコンツェルンD:
株式会社THEM、社会福祉法人 塔ノ原福祉会(錦ヶ丘保育園)、
学校法人 吉井学園(錦ヶ丘幼稚園)、特定非営利活動法人 風に立つライオン
- 事業内容: 有床診療所(総合内科・婦人科・がん総合診療科・東洋医学科およびホスピスケア、アレルギーや自己免疫病(アトピー)治療等)、NAGAYA TOWER運営、保育園・幼稚園の運営、良き医療人の育成・インドボランティア派遣
- 取引店: 熊本銀行 鹿児島支店 099-259-6111



医療法人 堂園メディカルハウス

20, 25 ボングルメ 株式会社

ボングルメ

- 設立: 1967年
- 所在地: 福岡県北九州市
- 資本金: 1億3,872万円
- 従業員: 53名
- 事業内容: 「あなご」「つづ貝」「とり貝」「赤貝」「えび」「いか」「たこ」等の
寿司ネタ加工食品の販売、冷凍倉庫業
- 事業拠点: 北九州市小倉北区(本社、倉庫)、東京都台東区(営業所)
- 取引店: 親和銀行 小倉支店 093-521-1481



ボングルメ株式会社